

# 仏の願い

平成 25 年 西雲寺だより 春号 (31 号)



安倍政権が発足して四月あまり、アベノミクス(安倍政権の経済政策)のおかげで、円高は円安に転じ、株価は大幅な値上がりである。金融の世界は、安倍首相のことば一つで躍る世界、大もうけをする人も大損をする人もいる。経済中心の社会はお金が中心でもうかる、損をすることで動いている。人間の値打ちも、会社の役に立つか立たないかで決まる。そこには人間の能力によって格差が生じ、いつリストラされるかとビクビクしながら働いている。一旦首を切られると再就職することはむつかしく生活が行き詰まる。私たちの今日の生活は表向きは豊かで便利になったがじわじわと格差が広がり、他を思いやる余裕もなく、自己中心的となり生きにくい社会となりつつある。

(住職)

## 親鸞聖人のご生涯

## 晩年の親鸞

## 絶対他力の世界

## 愚禿悲歎述懐和讃をいただく

長男善鸞を義絶した親鸞聖人は、その悲しみを振り棄てるかのように著述や書写に専念した。関東の教団を混乱せしめた慚愧と、如来の恩徳に報いんがために、聖人はかすむ目を見開きながら、毎日文机に向かった。

善鸞の事件から翌年にかけての著述は生涯の中で一番多い。老体からしぼり出すような気力である。その著述の中には後の世に残す教学的なものもあるが、『唯信鈔文意』や『一念多念文意』などの仮名聖教を著わしお弟子たちに与えられた。私たちに親しみ深いのは、義絶の一年後

弥陀の本願信ずべし  
本願信ずるひとはみな  
撰取不捨の利益にて  
無上覚をばさとるなり

という救世観音菩薩（聖徳太子はその化身）の夢告を受けて著わしはじめた『正像末和讃』百十六首である。聖人の長い生涯は懺悔と歡喜の繰り返しであります、その中

でも『正像末和讃』は、如来の「往相還相」の二廻向によって救われていくよろこびを高らかにうたい上げると共に、その如来の信に背く我身の罪悪深重なる在り方を深く懺悔しておられるのです。『正像末和讃』は八十六歳に完成しておられるのですが、その最後に「愚禿悲歎述懐和讃」十六首があり、愚禿の身の深い悲しみをうたいあげておられます。

浄土真宗に帰すれども

真実の心（しん）はありがたし

虚仮不実（こけふじつ）のこのみにて

清浄の心（しん）もさらになし

私たちは浄土真宗の教えをいただいたならば如来さまのお真実がはたらいて少しはましな人間になれると思いたいのですが、親鸞聖人はまことのみ教えに照らされてみれば、私に一点の真実もないことが見えたといわれるのです。「真実の心はありがたしこの「心」というのはわが心です。「ありがたし」というのは「あることがない」、私には真実の心がないと知らされたということことです。「虚仮不実」とはうそいつわりということことです。私たちは自分の不実には気がつきません。相手の不実に気づいたときには相手を責める。相手を悪ものとします。それが私たちの不実というものです。如来の真実のはたらきに照らされると相手を不実とみることのさもしさ、貧しさというものが見えてくるのです。

外儀（げぎ）のすがたはひとごとくに  
賢善精進（けんぜんしょうじん）現ぜしむ  
貪瞋邪偽（こんじんじやぎ）おほきゆえ  
奸詐（かんさ）ももはし身にみてり

「外儀のすがた」というのは、私たちの生活のすがた、うわべのすがたです。私たちは仏法聴聞の場で煩惱具足の凡夫と聞かされ、如来さまのご本願は善人よりも、煩惱にまどい苦しむ悪人をお目当てと聞かされても、一旦日常生活の場に戻ると、賢き人であるように、善人であるようにうわべを装うのです。「貪瞋邪偽」とは、「貪」はむさぼり、「瞋」は腹立ち、「邪」はよこしま「偽」はいつわり、こういうものが私たちの内面には満ち溢れている。「奸詐」の「奸」はわるがしこいこと、「詐」はいつわりだますこと、「ももはし」は多いということ、私たちは知恵や理性をもちますと、立派な人間になるように思いますが、知恵をもちばずるく悪がしこくなり、努力や精進をしてみても人間の本性というものは少しも変わらないのでしよう。私たちにこのような厳しい自己批判はできません。これはひとえに衆生を見出し如来の悲しみです。その如来の悲しみの中に自己を見出しおられるのです。

小慈小悲もなきみにて  
有情利益はおもうまじ  
如来の願船いまさずは  
苦海をいかでかわたるべき

小慈小悲もなき身とはまことに厳しいおことばです。私たちにも困っている人を見るとき悲しみや同情のこころより何とかしてあげたいと思います。二年前の東北を襲った地震と津波、そして原発の事故で家族を失い、放射能に苦しんでいる人々に対して何とかしたいと思っても全く無力です。ヒューマニズムということばがありますが、私たちに他人を思いやり、たすけたいという心はあっても、最後には自分がかわいという心が残ります。わたしたちが「小慈小悲もなき身」ということは、逃れようがないのです。しかしこのような生きるに耐えないようなことを詠いあげられるのは、聖人にはすでに大慈大悲が動いてきておつて、大慈大悲に包まれておられるからです。大慈大悲に包まれてある身であるからこそ、小慈小悲もなき身が悲しみとなってふき上げてくるのです。

**自然法爾**（じねんほうに）

親鸞聖人は八十六歳の十二月に『自然法爾章』を著わしてお弟子の顕智（けんち）に与えておられます。これは聖人が最晩年に到

達した絶対他力の境地を表わされたものである。私たちは自力・他力という自力があつて他力と相対的に考えますがそうではありません。他力とは如来の本願力であつて人間の計らいを超えた仏の世界で、自力は人間の努力や計らいの世界です。私たちはどれだけ人間の努力や修行、学問を積み上げてお仏になることはできないのです。私たちがともすると自分の努力の延長上に如来の本願を仰いで、たすかろうとしますが、人間の努力に如来の力をつけ足して救われるものではありません。自力無効の世界が本願力の世界です。

聖人は人智を超えた本願他力によつて救われていく世界を「自然（じぜん）」と「自然（じねん）」と味わわれたのです。「自然（じぜん）」と「自然（じねん）」とは違います。自然（じぜん）とは私たちが住んでいる環境で、時には台風や地震となつて人間を苦しめるものであり、また資源として山を切り崩し、森を伐採して人間が利用するものです。しかし「自然（じねん）」と表現した時は、私たち生きとし生けるもののいのちを育て育む大きないのちの働きを意味します。自然薯といういもがあります

が、このいもは毎年親いもが子いもを再生し、子いもは親いもを栄養として五、六年かけてようやく一人前に成長



するので。親鸞聖人は「自然（じねん）」を「おのずからしからしむ」と読まれて、如来の本願力の絶対他力の世界を表現されたのです。聖人のお言葉をいただきましょう。

「自然（じねん）の自とは、おのずからということです。人のはからいではありませんが。然とはそのようにさせるということばです。人間の側のはからいではありません。それは如来の誓いですから、法爾（ほうに）といひます」

「如来の誓いは、人がはからいを離れて、南無阿弥陀仏と、仏をたのみ奉るとき、それを迎え入れようというおはからいなのです。善悪もはからわれないことを自然（じねん）といひます。如来の誓いの要は、念仏の人をこの上ない仏にさせようと誓われたことです。この上もない仏とは形もありません。形もないゆえに、自然（じねん）といひます。阿弥陀如来といひます。自然（じねん）といひます。これを知らせようとそる手だてなのです。」

親鸞聖人は流罪や長男義絶という苦勞多き人生をお念仏と共に歩まれて、十六歳のとき、改めて「自然法爾」という「南無阿弥陀仏」といふ真実のはたらきのなかに、人間の一切のはからいから解き放されていく信の境地を味わわれたのです。（住職）

お内陣修復

漆塗師 齊藤清丈 きよたけ

私は、この度お内陣修復にあたり漆塗りを担当させて頂きまゝに。漆塗りとはひと言で言っても単に漆を塗るのではなく、たくさんの工程を経て完成します。

- ① 元の漆をきれいに削る
- ② 漆で布を貼る
- ③ 漆との粉を混ぜた下地を塗る
- ④ 下地を研ぐ
- ⑤ ③と④を四、五日繰り返し行う
- ⑥ 中塗り
- ⑦ 仕上げ塗り

という風に、十数回の工程を経て完成します。

その後、そこに金箔を貼るので、私の仕事は隠れてしまいますが

下地が悪いと金箔もきれいに仕上がりないので、大切な仕事です。興味のある方は、金箔を貼る前の漆黒のお内陣を見て頂けたらと思います。

今回私は、2月20日からの、また寒い中でのスタートでしたが、見事なしだけ、桜、鮮やかなはなとことを見事事で春を堪能でき、またみなさんのやさしいお心遣いも頂き、とても楽しく仕事をさせて頂きまゝに。ありがとうございます。



漆塗師の道具

漆刷毛(うるしばけ)は、ひのきの薄い板で女性の頭髮を包んであります。絵画用の刷毛とは違い、通し刷毛といって毛束が鉛筆のようになっていて、毛先がすり減ると削り出して使われます。漆刷毛師といふ職人さんにより一本一本丁寧に作られています。

# 御内陣修復の経過です

(2 月下旬～5 月上旬)



前頁③の工程です



前頁②の工程です



前頁①の工程です。まずは削る作業が続きました



前頁⑤の工程です。研いでは塗り、研いでは塗りを繰り返します



部分的に白い下地が施されました



混ぜ物をして良く練っているところです



ナマの漆を見せていただきました。空気に触れるとすぐに変色します。



幾重にも塗り重ねられて、漆の黒いツヤが美しさを増してきました。玄関に入ると、ツーンと酸っぱい漆の匂いが漂います。白の下地には黄色い下地が重ねられました。

## 本堂の妻壁が両面とも修復されました (3月中旬)



吉川氏、小林氏の寄付に依るものです。



## ☆お稚児さん募集☆ ～50年に一度の御遠忌です～

来年の4月27日(日)に勤めます、宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要に、お稚児さん（庭儀式）を出しますので、お子さんをお持ちのご家庭は是非ご参加下さい。  
 稚児行列は華やかで、御遠忌法要を荘厳するものです。  
 参加されたお子さんには必ず思い出となり、また良き仏縁となります。  
 そして、仏さまの子供として成長していってくださると思います。  
 費用は一人七千円です。  
 秋の西雲寺の報恩講までに各地の世話方さんまで申し込んでください。  
 市街地の方や遠方の方は直接当院に申し込んで下さい。  
 西雲寺のご門徒でなくても、ご親戚やお知り合いの方にぜひおすすめ下さい。



### 西雲寺のおちごさん

日にち H26年4月27日(日)  
 場所 武周町 西雲寺  
 費用 おひとり7,000円  
 申込締切 H25年10月20日

お待ちしております



## ご寄付のお願い ～50年に一度の御遠忌です～

来年の4月27日(日)に勤修いたします宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要と、それに伴います内陣修復は、十年計画で費用を積み立ててまいりましたが、三年早めて勤めさせていただき、資金が不足しております。来年に迫りました、この五十年に一度の御遠忌法要を是非成功させ、お同行の皆様と共に賑々しく勤めさせていただきたく、広くご寄付をお願いする次第です。

何卒よろしくご協力の程お願いいたします。(1,000円でも尊いご寄付です)  
 尚、市街地の方や遠方の方は口座振替をご利用下さい。

仏教伝来1500年 西雲寺350年「先人から私達へ 私達から子や孫へ」

### 口座振込のご案内

(恐縮ですが振込手数料がかかります)

福井市農業協同組合 やしろ 社支店  
 店舗番号 6785-018  
 口座番号 0000337 (普通)  
 振込先 しんしゅうぶつこうじは 真宗佛光寺派 さいうんじ 西雲寺  
だいひょう 代表 たかはしさとし 高橋 諭

### ゆうちょ銀行口座をお持ちで

ATMで振り込まれる場合

手数料が無料になります

ゆうちょ銀行  
 記号 13320  
 番号 5351911

たかはしさとし  
 (会計の高橋諭氏の名義になります)

## 山門揭示板

年をとると  
 生きることも  
 死ぬことも  
 みる  
 あたりまえとなる

年をとるといふことは、長い人生において、つらいこと、悲しいことなどいろいろなことを経験して、人生のベテランになったといふことであり、決して悪いことでなく、尊いことでしょう。

しかし反面、年をとるといふことは悲しいことであります。それは人生、生きることに慣れてしまつて、何の驚きも感動もしなくなつてしまふことです。生きることも、死ぬことも当たり前になつてしまふのです。

仏法聴聞においても同じです。初めのうちは人生の壁につき当たつたり、悲しいことに会つたりしたことをご縁として、聞かせていただく感動もし、お念仏が出たこともあつたでしょう。しかし、慣れてくると当たり前になり、有難さも消え失せてしまふのです。聞かせていただかなければならないという「求道心」がどこかへ行つてしまふのです。悲しいことです。(住職)

## 寄稿

西別所町 釈真光妙映

ご住職さまには、親鸞聖人のご生涯について、また揭示板、続いて人生の悩み苦しみを通して、仏道に出会うことの大切さ、お念仏の広い世界に出遇ふことの大切さを書き留めてくださり、心にとどめ、読ませていただいております。若住職のお方には、度々「仏の願い」をお忙しい中お届け下さり、心よりお礼申し上げます。

前号(早春号)の表紙、動座された如来さまのお姿、ふと、仏さまのまわり、うす黄色く浮かびあがつてお見えになり、不思議さ、尊さ、ひとりでナンマンダブツ、ナンマンダブツと、読み終えるまでに時間がすぎゆきました。お内陣ご修復、こころよりお喜び申し上げます。ご修復のお手伝いなされました方々、こころより感謝申し上げます。生あるすべて、いのちの「み親さま」でございます。親鸞聖人がまとめなされました正信偈のいわれ、若住職より書き留めてくださり、ありがたく感謝いっぱいでございます。

木蓮の樹にしましても、時節が呼ぶのです。生きてゐる、だからこそ、寒くとも芽吹き、花は咲く。老いたしだれ桜だって、体が空洞でありつつも、懸命に咲きほこるのです。

少し私の言葉に耳を傾けていただけないでしょうか。煩惱具足の、上げも下げもならない、欲、怒り、そねみ、うらみ、罪深きこのたましい、お阿弥陀さまは、法蔵菩薩、因位(いんに)のとき、何としてでも救わねばの一念にて、四十八願をおたてなされ、十九の願、二十の願、一番大切な十八願、本願のことでございます。お阿弥陀さまの本願とは、すべての人を必ず煩惱あるままのお救いなのでございます。無明の闇をたちきることのできなされるお方は、宇宙ひろしといえども、阿弥陀如来様おひとりでございます。折に触れ、聴聞させていただきましょう。

私のひそやかな思い、書くは私なれど、お導きたまうは如来さまよりのお慈悲にて、南無阿弥陀仏。あなかしこ。

西雲寺 枝垂れ桜 ことほぎて

みおやのお慈悲 四方(よも)人々に

合掌

## ご本山 お差向布教のご案内

例年のとおり、次の日程でつとまります。  
お誘い合わせご参詣の程  
よろしく申し上げます。

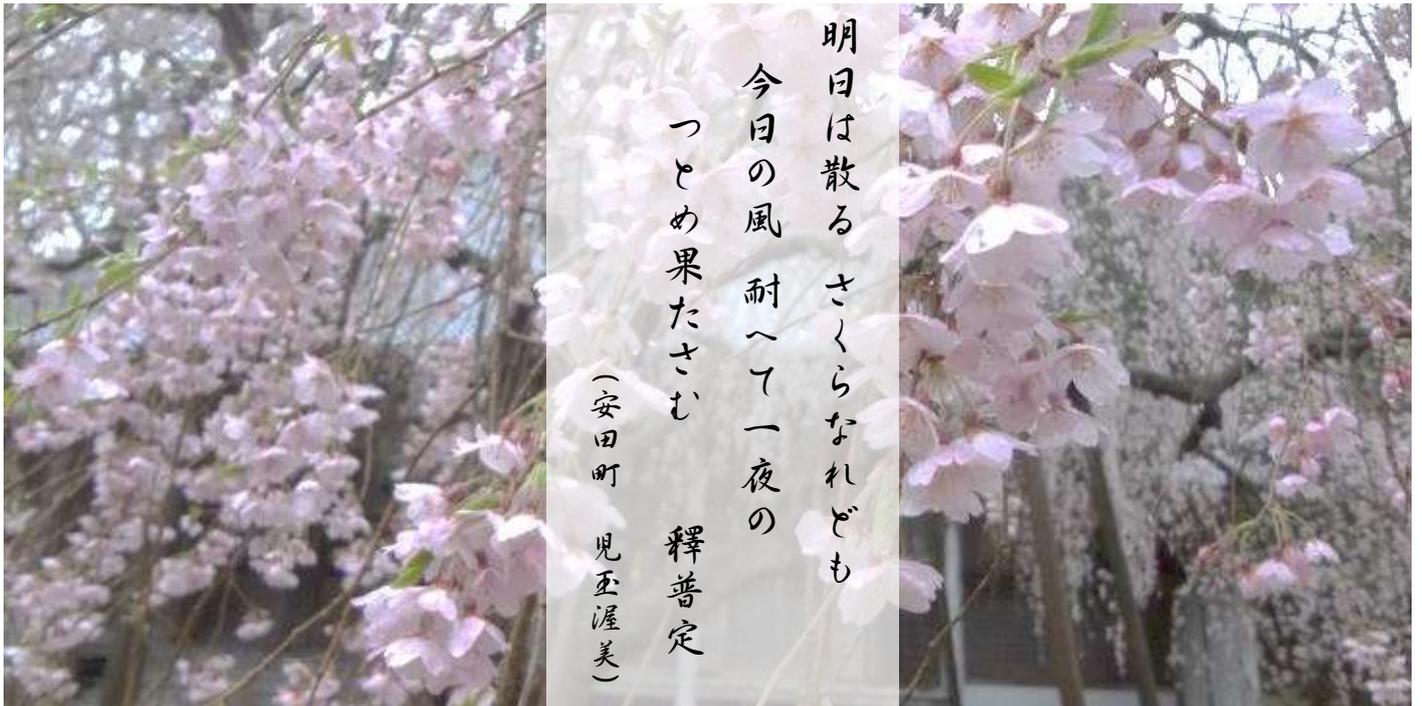
布教使 北海道士別市  
富永俊麿 師

6月 14日お逮夜～15日お日中  
西雲寺（お仏間にて）  
6月 16日午後・夜～17日朝  
安田町 未定高領氏宅  
6月 17日午後・夜～18日朝  
本堂町 横山栄二郎氏宅

## 真宗仏光寺派 福井教区 門徒研修会のご案内

日時 6月 22日(土)10時～  
会場 福井・江守 仏照寺様  
講師 宮戸道雄（みやとみちお）師

今年度の門徒研修会は  
上記のとおり開かれます。  
どなたでもおさそい合わせ、  
ご参加下さい。  
費用は千円です。  
ご参加下さいます方は、  
世話方さんを通じて、  
また市街地の方は直接西雲寺の方まで、  
6月 15日までに申し込み下さい。



### 発 行

真宗仏光寺派 専念山 **西雲寺**  
住職 護城一寿  
筆頭総代 吉川芳弘  
編集責任者 護城一哉  
〒910-3523 福井市武周町5-2  
電話 0776-97-2138  
メール kmgojo@mx3.fctv.ne.jp  
ホームページ <http://arukou.net/>

次世代の方、分家された方に！  
お寺から郵送いたします。どうぞ  
ご遠慮なくお申し出下さい。

みなさんの声 大募集！  
原稿や作品はもちろん、ご意見、  
ご感想など、どしどしお寄せ下さい。  
郵送でもメールでも構いません。お  
待ちしております。